



年頭にあたって

会長 蛭子政喜



会員の皆様、あけましておめでとうございます。

令和3年の正月を楽しく過ごされている事とお慶び申し上げます。昨年は新型コロナウイルスの関係で各種行事を自粛する事となりましたが、今年も会員の安全安心を大切に様子を見ながら各種行事を計画したいと思っております。

当会のモットーであります龍馬の生き方、考え方など通じて会員相互の連携をより一層図る為、例会等で会員講話を中心に互いに研鑽を図り会員を増やしながより一層の交流懇親を図りましょう。

金沢龍馬会の皆様方の益々のご清栄と更なるご活躍をご祈念申し上げます。



32回龍馬 World 松山大会 オンライン大会

報告：吉田信夫事務局長

「第32回龍馬 World 松山大会」が昨年10月10日（土）15:30~17:20：東京第一ホテルイン松山で開催されました。

今年はコロナの影響で松山会場には80名程度が参加しました。今年の全国大会は四国の松山で「龍馬が行く」と並び司馬遼太郎の代表作「坂の上の雲」の舞台で本当に楽しい雰囲気満載でした。

今年は例年と違い講演やシンポジウムはありませんでした。

またオンラインで各ブロックのサテライト会場を結びました。橋本会長の挨拶やビデオでの来賓祝辞があり、各サテライト会場より各種意見が披露されました。

北は北海道、南は鹿児島、海外はタイとオランダがオンライン参加しました。近畿北陸ブロックは京都祇園龍馬会が経営する「Penguin 焼酎倶楽部」に越前/紀州宗光/金沢より代表各1名、京都祇園4名、計7名が参集しました。



(京都祇園龍馬会のカフェ)

金沢龍馬会から吉田信夫事務局長、越前龍馬会から前田弘美会長さんらが参加されました。

来年度は高知開催で、主管はJR 四国となります。再来年は北海道旭川です。

その次の年は再度高知ですが、次の（平成6年）は近畿北陸ブロックの紀州宗光龍馬会（和歌山）が立候補する予定です。

YouTubeで大会の様を見ることができます。是非一瞥ください。

<https://youtu.be/JMZW-wWMbpE>

【龍馬せんたくコラム】

“コロナ禍に思うこと”

越前龍馬会 前田弘美 会長

龍馬さんとの出会いは40年前、バイト先の先輩にすすめられ「龍馬がゆく」を読み1人高知へ。電車やバスの接続がなくてもどうにかなるだろうと、若さゆえ？ヒッチハイクも2回経験、無鉄砲な性格は今も変わらないかも(笑)



その20年後、牧田相談役(越前龍馬会初代会長)と出会い越前龍馬会立ち上げのお手伝いをして平成13年(2001)4月8日設立総会、そしてこの度20年目を迎えることができました。

令和2年5月には、北陸3県龍馬会交流会とブロック大会を兼ねたお祝いの会を予定していましたが、コロナ感染拡大を懸念し延期。それでも20年を記念して企画した福井出身の海援隊士「関義臣」の碑は、越前市神明町の生誕地に設置しましたので是非ご覧ください。

さて、これからの行事ですが安全の為に自粛が当たり前と考えられる事が怖いです。何もしないのは退化していくだけで、そんな会に集おうと思うでしょうか？龍馬さんに憧れて集まった人たちの会、気持ちは常に前向きでありたいと思います。

第32回龍馬World松山大会はzoom開催となりましたが、準備してきた皆さんの笑顔が印象的で熱い思いを受け取りました。

今更ですが、コロナ禍がもたらした不安や生活への影響はまだ当面続くことでしょう。私たちが出来ることは希望をもち元気に活動することです。

龍馬さんのご縁で出会えた金沢の皆さんとも、情報交換し工夫しながら一緒に頑張っていきたいですね。引き続きよろしくお願いいたします。

まるわかり「龍馬と志士たち」⑦

志士たちが活躍した長崎とは ～五代友厚～

ここまで吉田松陰、木戸孝允、伊藤博文、井上馨と長州が続いた。他一方の雄である薩摩は西郷隆盛、大久保利通が有名だが、共に幕末に長崎に来ていない。

西郷は維新後、天皇の巡幸に陪臣として初めて訪問した。幕末に長崎で活躍したのは小松帯刀と五代友厚である。

薩摩藩家老小松帯刀は亀山社中誕生の立役者である。同じく五代友厚は勝海舟も学んだ長崎海軍伝習所で学び、その後上海へ探索に、またグラバーさんの世話で欧州へ密航し、帰国後、家老格で長崎へ赴任した。

グラバーさんと薩摩の共同出資にて小菅修船所（そろばんドック）を建設・運営した。

また「いろは丸」事件の際は紀州藩と土佐藩の仲介を行い、海援隊に依怙頼負した内容で決着した。

維新後は大阪で大活躍し大阪の恩人のようになったが、幕末長崎で加賀藩と二つの因縁があった。

志士としての活躍ではないが、本号では若干脱線してみたい。

加賀藩は遅ればせながら幕末になって長崎に目を付けた。

一つは西洋船（艦船）の買い付けである。それと優秀な若者の教育である。慶応元年にはグラバーさんから買った啓明丸に四十数名の若者を乗せて長崎へ遊学（自分の土地を離れ留学すること）させている。

高峰讓吉、清水誠など優秀な少年達である。さて同じく西洋から買った艦船発機丸であるが、しばしば故障する。修繕と新船購入交渉で長崎に滞在していた発機丸航海長であった関沢明清は密航の先輩である五代友厚の斡旋で他一名の加賀藩若者と共に薩摩藩密航チームと一緒にイギリスへ留学した。

関沢明清はその後、新政府に任官し万博担当となった。その時接した西洋の水産業が金になることに触発され、内務卿大久保利通の下で水産行政の責任者となった。金沢の偉人の一人である。

さてやっと本題に入るが、関沢が五代の協力で密航して1ヶ月後に事件が起きた。

ある夜、加賀藩若者の宿舍の門前で加賀藩の悪口を言う者達がいる。

問い詰めたところ薩摩藩の石神良平と名乗る。酔っぱらって罵詈雑言を取り消さないのが刃傷沙汰となり加賀藩士近藤岩五郎は石神良平を一刀のもとに切り殺してしまった。

加賀藩側はすぐに薩摩藩側に報告した。薩摩藩側は怒ることはなかった。ところが薩摩風と言おうか、日々誰かが加賀藩宿舍にやってくる。

そして五代友厚がやってきて「石神は貴藩の悪口を言ったのだから切られても文句は言わない。

しかし武士と武士の間の刃傷だから、切った方がどうすればよいか分かっているはずである」というもので、口では言わないがその態度で自刃しろと迫るものであった。

当初、国元に報告し裁断を仰ぎたいとしていた加賀藩側もついに圧力に負け近藤は切腹することになった。

結果、薩摩側は近藤を褒めたたえ、「さすが武士（もののみ）である」とした。金沢には事後報告となった。

しかし加賀藩は近藤岩五郎を高く評価し、近藤家に対し100石の加増とした。

この時の加賀藩からの遊学生は優秀で高峰讓吉は言うに及ばず、上記事件の時、近藤以上にいきり立った清水誠はその後フランスに留学し金星観測でフランス側の通訳で来日した。

そして帰国後マッチ工場を起し日本の外貨獲得に貢献した（卯辰山に像がある）。近藤もこの事件がなければ偉人の一人になった可能性がある。

なおこの刃傷沙汰には続編があり、鳥羽伏見の戦いの後、長崎奉行が奉行所を脱出し江戸に逃げ帰った。

其の後、在長崎関係各藩の代表者や海援隊のメンバーが共同で奉行所と長崎を管理した。

その時、薩摩藩藩士が酔っぱらって奉行所に押し掛けてきた。それを暴漢と勘違いして海援隊士で龍馬と一緒に土佐を脱藩した沢村惣之丞が薩摩藩川端平助を射殺してしまった。

沢村は英語が流暢で優秀だったこともあり皆が説得にもかかわらず、彼は薩摩との関係を考慮し自刃した。

げに薩摩人は気性が激しい。

また喧嘩後の作法は独特であり相手にも要求する。



岩五郎の墓がある長崎「光源寺」



「光源寺」は産女の霊で有名



近藤岩五郎の墓は右から二番目、「加州之臣近藤信成墓」とある

参考資料：長崎新聞

【編集後記】

皆さま、今年も宜しくお祈りします。心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。会報も第26号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

***** 事務局 *****

金沢龍馬会

会 長：蛭子政喜

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muji.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 公式ホームページ

<https://kanazawa-ryomakai.com>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai>

